

宮崎汎会員が見た世界の旅第2部人物編第14話

ポルポトの残虐 カンボジア見たまま聞いたまま感じたまま

カンボジアには公務で2回訪れている。首都プノンペン、アンコールワットのあるシェムリアップ、カンボジアの貿易港として開発が始まるシアヌークビルなどを視察調査したのである。振り向けば未来が見えるというので当時の記録をひも解いてみた。さて果たしてカンボジアの未来は見えるであろうか？ 以下は今から10年前の2011年に作成した記録である。



首都プノンペンの王宮

2002年にカンボジアを一度訪れ、今回は二度目の訪問である。カンボジアというと日本人の誰もがまず頭に思い浮かべるのは「ポルポト」の暴虐と全土に敷設された地雷への恐怖であろう。今般わずかの滞在期間ながら、さまざまな場面でカンボジアの人々が、ポルポト時代に受けた心の傷が未だ癒えてない事を知った。滞在中世話をしてくれたガイドは、父親と兄弟3人が兵士に連れ去られたまま、母親は残された幼い兄弟

三人に食わせるため、自分の食べ物を分け与え餓死してしまった。またプノンペンで観光業を営む旅行社の社長は両親と兄と姉が虐殺されてしまい、やむにやまれず母国を脱出しインドシナ難民として、日本の難民センターに世話になり教育を受けたという。

カンボジアでは国民の誰もが例外なく、こうした辛酸をなめている。何せ三百万人、国民の3分の1が殺戮されてしまったのである。どこにも持って行き様の無い深い恨みはなかなか消えてはくれない。

プノンペンの市内にポルポト時代の刑務所跡がある。以前は高等学校の校舎であったものを独房や拷問部屋に作り変え、何万人もの人たちがここで命を落とした陰惨な一角である。当時は建物の床に血溜まりが出来て黒く変色していたが、人々に開放するために一部張替え綺麗にしたほかは原状を維持している。陰惨な廊下を欧米はじめ多くの国の人たちが黙々と歩き回っている。2009年に、ここが負の世界遺産に登録されたことを知った。アンコールワットなどの観光地には、ウンカのごとく押し寄せている中国や韓国の人間はここでは見かけることはなかった。



ポルポト政権によってカンボジアの知識階層は例外なく逮捕・監禁・拷問・殺害された。写真は収容された刑務所の内部である。平和が戻り刑務所（元は高等学校の校舎）は一般に公開され、きれいに整備されているが、当時は床や壁に血しぶきがどす黒い大きなシミをつくり凄惨な雰囲気であ

ったという。わざと殺害を子供たちにやらせたり、銃弾がもったいないとスコップで殴り殺したと説明するガイドの声に思わず耳をふさいだ。

次の写真は同じ部屋であるが、かつてこの部屋で行われた場面がパネルとなって壁に掲げられていたのでカメラを向けた。パネルのベッドには死体がのっていたのである。



現政権は長期政権となっている。政治好きのカンボジア人の某氏によれば、いまの政権は兎角の噂もあり問題だと思うが、国民一般は変化を極端に敬遠する。要は次期政権がまたぞろポルポトの時代に逆戻りする恐怖を味わいたくないからであろうという。

近年カンボジア政府は経済特別区を全土に展開整備し、外国資本の投資を呼び込もうと躍起となっている。そのため日本人専門家が何人もアドバイザーやコンサルタントとして、さまざまな分野で文字通り汗を流している。日本からは縫製工場や靴工場がすでに進出してきたそうだ。日本人はカンボジアに対しポルポト時代の残虐な行為や地雷の国といったイメージを固定化してしまい、なかなか払拭してくれないという。

今は地雷もタイ国境などの一部を除いてほぼ除去され安全だそうだ。十年前にやって来たとき、日本大使館から「カンボジアにある8本の国道のうち1本だけは地雷も撤去され舗装もされて安全が確保された。残りの7本の国道の安全確保はこれからだ」と説明を受けた。十年経った今日、全ての国道は舗装され、まったく不安は無いということで、安全性は急速に改善されつつあるようだ。プノンペンの夕刻、混雑する市内の道路を大勢の警察官が検問をしている。ポルポト時代に全土に拡散した銃やナイフなどの武器を、今も市民は所持しているので、これを摘発するために抜き打ちで検問をおこなっているのだという。

カンボジアの隣国ベトナムのホーチミン市から、プロペラ機でわずか45分のところに首都プノンペンがある。こんなに近くとも両国の間にはさまざまな「差」がある。

まず空から見た光の分量が格段に違うのである。上空から見たホーチミン市は見渡す限り美しい夜景が広がる巨大な光の都市である。また道路には車やバイクのライトが一本に繋がりどこまでも光の線となって連なっている。

一方250万人が暮らす大都会プノンペンの上空にやってきた。目を凝らさないと良く判らない暗い陰気な光が、ぼんやり街を覆っている。カンボジアの電力のほとんどは隣国タイやベトナムから買っているのだ。電力不足は市民生活ばかりでなく、産業誘致の行く末にも一抹の不安を抱かせる。安価な労働力を求めて、中国からも縫製業などの企業進出が盛んと聞かすが、カンボジアへ企業進出する場合は、当面豊富な労働力を使った労働集約型産業に限定せざるを得ないのだろうか。

現地で活動をしている日本人に、カンボジアの労働者の質を尋ねると、おおむねカンボジア人は愚直で勤勉で、言われたことはマニュアルどおりきちんとするが、言われた以外のことを積極的に

しようとする意志がほとんど見えないのだと残念がる。

一方ベトナム人はすばしっこくある意味では油断がならないが、しかし自ら仕事の段取りに工夫を凝らしたり、改善を加えたり提案したり有能な働き手であると、労働者の質の差を語ってくれた。カンボジアはマンゴーをはじめ果物が非常に豊富に実るが、食べたり、市場で自分が売ったりする以外は畑で腐らせてしまう。無駄にせず余ったものを加工するなどして、生活を豊かにしようという意欲や才覚があまり働かない。

日本での生活を経験したカンボジア人の識者によると、カンボジアの人たちは、貯蓄をしようという意識が低い。また自分の収入に見合った生活をするといったことに無頓着で欲しいものは無計画に手に入れようとする。自分の将来を切り拓く生活設計を考えるとといった気質に欠けている。

10年前に訪れた時の話である。疲弊しきった農村部で日本人の指導者が、農民の生活を向上させようと大変な努力をした。カンボジアは三毛作が可能なので、当時一毛作しかしてない農村部に、少しでも収入をもたらすために三毛作の作付け方法を教えた。数年経ってフォローアップのため同地を訪れてみると、結果は元の一毛作に戻っていた。理由は自分が食べるには一毛作だけで十分で、余分な収入を得るためにこれ以上働きたくないといったそう。今般20年以上もカンボジアで暮らす日本人経営者に尋ねてみた。彼は必要以上には働こうとしないカンボジア人の一般的な気質を言い表しているのだと評した。

カンボジアは平均年齢22～3歳の若い国である。若者は都会へどんどん出て行くが、得られる収入は乏しく、自分がやっと食える程度の生活をしているのである。都市と農村部の所得格差は非常に大きい。

一方田舎に残された老人達は悲惨である。誰も老人の世話をしないのである。カンボジアでは、国は一切国民の福祉や社会保障と言った問題にタッチしようとしなない。全て個人の責任に任されたままで、安心して老後を送れない悲惨な状況にある。一方日本は国や社会全体で支えあう仕組みが確立していて、カンボジア人から見ると天国のようなすばらしい国家であるとガイド氏は慨嘆した。帰国してから過ぎた記憶をたどりながら奇妙なことに気がついた。都市でも農村でも観光地でも動き回ったどこにも高齢者(60歳、70歳、80歳)とおぼしき人をまったく見かけなかったのである。ただの一人もである。カンボジアは不思議な国にうつる。

最近、プノンペンでは英語を学ぶ人が増えている。日本語はまだ一校あるだけである。またIT関係を学ぶと収入が増えるので人気が出てきたそう。

さてカンボジア滞在中、しばしば耳にした正規の費用プラス「その他費用」(=ワイロ)について、さまざまなケースを聞いた。

カンボジア政府が関係する許認可・検査・通関・各種申請などには必ず設定されている「正規料金」に「その他費用」が加算される。輸送費に一例をとると、通関費US200ドル+「カスタムチェック費」の名目で、通関費は400ドルとなる。しかも荷揚げされた港で、一度400ドル取られ、230km離れたプノンペンへ荷物を運送したところ、プノンペンでさらに通関費として400ドル徴収された。要するに通関費の二重取りである。極端な例では4ドルにその他費用が250ドルかかり、合計254ドルというケースもある。正規料金には領収書が発行されるが、「その他費用」には領収書は一切発行されない。

関係機関に機会あるごとに、しばしば改善を申し入れているが遅々として進まない。原因は公務員

の給与の低さにあり、その他費用は、公務員の給与補填に使われているようである。その他費用は、まずトップ、ついでミドル、そして残りを職員が分け合うようだ。以前（10年前）に体験したことだが、警察官に付きまといわれたので、通訳を介して聞くと、金が無いのでカンボジア警察官である自分の警察バッジ（身分証明）を記念品として買ってくれという執拗な交渉であった。10年経っても改善されていないようだ。

市内で買い物をする場合も全て定価らしきものがあるが、値下げ交渉をしてみる、2, 3割は値引きする。観光客でにぎわうシェムリアップ市内に、日本人女性の経営するクッキーなどを商う土産物屋がある。この店だけは商品の値引きに一切応じない。入ってみると日本人以外の観光客は誰もいない。ガイドがここは高いし美味くないなどつつぶやいている。この店にいい感情を持ってないようだ。カンボジアの商取引の健全化に努力しているのかもしれないよという、ガイドは変な顔をして首をかしげていた。

カンボジアはポルポト政権崩壊後、世界各地から援助の手が差し伸べられた。今も日本は援助を惜しんでいない。日本人として誇りに感じたのは、世界的な観光地であるシェムリアップ周辺の遺跡保存に大いなる貢献をしていることである。名高い遺跡はアンコールワット、アンコールトム、タ・プローム、バンテアスレイなどであるが、アンコールワットとアンコールトムは規模も群を抜いて大きい。この二つの遺跡を早くから、日本の上智大学および日本政府が援助して、今も修復に携わっている。遺跡の入り口には観光客の目に触れるようなところにその旨が掲示してある。最近中国なども小規模の遺跡修復に援助を与えていると聞いた。



アンコールワットの大遺跡群



タ・プローム 樹木が寺を食いつぶす

プノンペン市内の目抜き通りに、韓国企業が40階建ての高層ビルを建設中である。ところが資金が続かず30階ほどで中断している。昼見ても夜見ても、むき出しのコンクリートのビルが黒々と立ちふさがり廃墟のように見えてまことに見苦しい。

中国は見晴らしのいい市内の川岸に、巨大な賭博場つきのホテル・レジャー施設を建設中である。また中国は資金の無いカンボジア政府に建物を建設して寄付したとも聞いた。

アンコールワット周辺の遺跡見物には、世界中から年間250万人を越える人たちが押し寄せる。欧米系も多いが、以前は加えて日本人観光客で賑わっていた。日本人は現在も年間16万人も押し寄せ決して少なくは無いが、現地は今中国人と韓国人で溢れている。中国人のマナーの悪さ、傍若無人振りには唾然とするが。

カンボジアには交通ルールが無いのか、道路を逆走するバイクもあり、危険この上もなく、ハッとせず目を閉じることもある。交通事故もしばしば目撃した。事故があるとなぜか道路の真ん

中であっても、すぐに大勢の人だかりが出来て車は渋滞する。仮に死者が出ても千ドル払えば話がつくとのこと。まず逃げるが勝ちですとカンボジア人はいう。これが本当ならば怖い話である。日本の難民センターで青春時代を送った旅行者の社長は、プノンペンで今では職員に日本人を雇用しているほどの努力家だが、「カンボジアは、これから発展していく可能性を秘めた国ですね」という問いに顔をじっと見て、ふっと表情を和らげ心情を吐露してくれた。



メコン河のほとりで夕涼みする僧

20年前、辛い思い出ばかりの母国を捨て、難民として日本にやって来て、一大決心のもと日本の国籍を得た。政権が変わりカンボジアの将来は前途洋々これからよくなる。カンボジアには希望がある。ぜひ帰ってきて母国のために尽くせと言われて帰国の決心をした。いま「カンボジアはこれからの国だ」といわれたが、今日まで20年間いつも「これからよくなる」といわれ続けてきた。しかしあまりよくなったとは感じられない。この先本当によくなるのでしょうか？目を

じっと見てそう問われ、正直返答に窮してしまった。

市内を流れる悠久のメコン川と夕涼みする僧の姿を見てこれがこの国の本当の平和な姿だと思いきやカンボジアの発展を心の中で願った。

海外を歩いていて時々気がかりに感じることもある。日本と比べると経済的に恵まれない国々には、例外なく子供達が大勢いる。私たちの周りに集まってくる彼らは、これまた例外なく垢じみたぼろきれのような服を身にまとっている。自分の子供や孫がもしこのような境遇に置かれていたらと思うとひどく悲しくなる。いつかある国で感情が激し可哀想になって集まってきた子供数人に現金を与えたことがある。ところが現地のガイドに強く叱られた。子供達に物乞いの習慣を与えるからやめて欲しいというのである。

以来一時の感情で施しは決してしてはならないことと自戒してきた。この度のカンボジアの農村部でも同じ光景に何度も出くわした。子供達は手を出すわけではない、モノ欲しそうな顔をして集まってきたわけではない。

私たちの訪れがもの珍しかったのであろう。身なりは気の毒なほど貧しいがニコニコしている。同行している仲間の一人が小声で「ぼろは着てても、心は錦」と水前寺清子の歌を口ずさんだ。

まだ社会制度の未成熟なカンボジアにも正義の味方“タイガーマスク”が現れてくれないものかと心底願いながらバスの窓から子供たちに思い切り手を振って別れを告げた。

余談) 耳学問で拾ったカンボジア語の意味

プノンペン=ペン夫人の丘 (プノンは丘、ペンはペン夫人)

トンレサップ=サップは川 (プノンペンでメコン川と合流する川、トンレは川)

シェムリアップ= (シェムはシャムすなわちタイ、リアップは追い出す)

アンコールワット=都市の寺 (アンコールは都市、ワットは寺院)

アンコールトム=大きな都市 (トムは大きい)

アプサラ=天女 (遺跡に数多く描かれているモチーフ)

